

# 平成 28（2016）年さけます来遊状況（第 4 報：11/30 現在）

## 1 カラフトマス来遊状況

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
北海道区水産研究所 さけます生産技術部

- 来遊数は 890 万尾 [前年同期：424%、平年\*1 同期：107%]
- 平成 16（2004）年以降の来遊数から判断した場合、今年是不漁年に当たる
- 来遊数は平成 16（2004）年以降の不漁年では最も多く、豊漁年を加えても 2009 年  
以来の水準
- 全道で 1 億 3632 万粒 [前年同期：94%] の種卵を確保

\*1：平年とは、平成元（1989）～平成 27（2015）年の平均値

（北海道）

本年度、北海道のカラフトマス来遊数は 890 万尾 [前年同期：424%、平年同期：107%] となりました。

カラフトマスの来遊数は隔年変動することが多く、北海道では平成 16（2004）年以降、奇数年が豊漁年、偶数年が不漁年に相当します。今年是不漁年の年回りですが、来遊数は平成 16（2004）年以降の不漁年では最も多く、豊漁年を加えても 2009 年以降の水準になりました（表 1 および図 1）。

また、本年は漁期終盤に台風が相次ぎましたが、定置網には大きな被害はありませんでした。

来遊年	11/30 現在	最終	来遊年	11/30 現在	最終
2004(H16)	587	587	2011(H23)	553	553
2006(H17)	918	918	2012(H24)	221	221
2006(H18)	559	559	2013(H25)	325	325
2007(H19)	1,491	1,491	2014(H26)	158	158
2008(H20)	704	704	2015(H27)	210	210
2009(H21)	1,111	1,111	2016(H28)	890	-
2010(H22)	731	731	平年	831	831

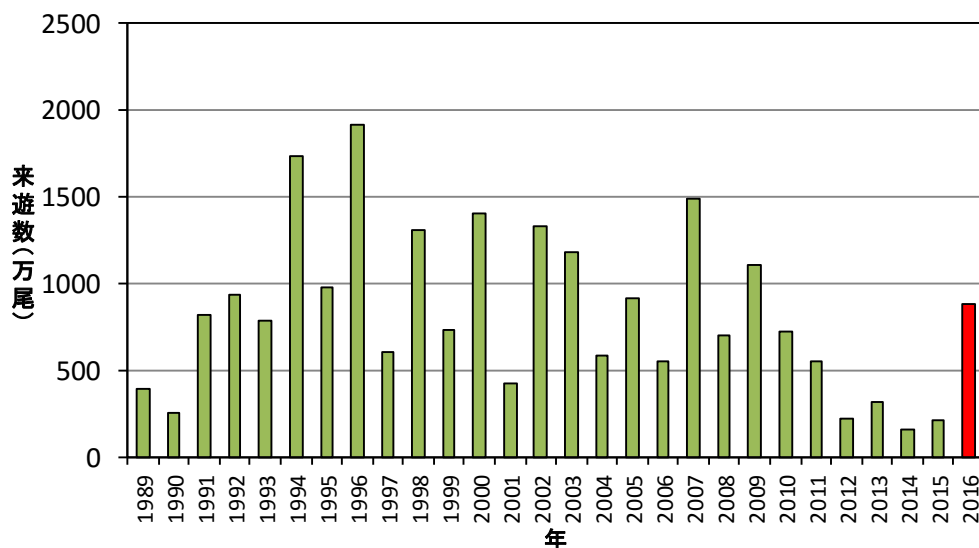


図 1. 7 月 1 日～11 月 30 日までのカラフトマス来遊数（累計値）。2016 年は速報値。

地域別にみると、日本海側（オホーツク海区及び日本海区）では 832 万尾〔前年同期：474%〕、太平洋側（根室～えりも以西海区）では 58 万尾〔前年同期：166%〕と、両地域ともに前年を大きく上回りました。

カラフトマスの河川捕獲数は、76 万尾〔前年同期：317%、平年同期：86%〕となり、平成 16（2004）年以降では平成 22（2010）年に次ぐ水準となりました（表 2）。地域別にみると、日本海側では 74 万尾と前年同期 343%の捕獲数ですが、台風による河川増水の影響の大きかった太平洋側は 1.6 万尾と前年同期の 70%に留まりました。なお、河川増水により、捕獲施設（ウライ）が冠水したことから、相当数の親魚が上流に遡上したものと推測されます。

採卵数は、1 億 3632 万粒と前年同期の 94%が確保されました。この採卵数は全道の採卵計画数 1 億 7280 万粒の 79%に相当します。地域別にみると日本海側で前年同期 99%に対し、太平洋側では前年同期 56%に留まりました。

捕獲年	11/30 現在	最終	捕獲年	11/30 現在	最終
2004(H16)	65	65	2011(H23)	59	59
2006(H17)	89	89	2012(H24)	26	26
2006(H18)	94	94	2013(H25)	48	48
2007(H19)	144	144	2014(H26)	26	26
2008(H20)	92	92	2015(H27)	24	24
2009(H21)	131	131	2016(H28)	76	-
2010(H22)	87	87	平年	88	88